

国語 第1学年 ふたりで かんがえよう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、身近な物の特徴を使った問題を相談して作る。思い付いた手がかりを順に言うだけにせず、相手の案を聞いて付け加えたり、理由を尋ねたりして話を続ける。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「ふたりで かんがえよう」 教材名「これは、なんでしょう」

2 単元の目標

物の特徴を表す身近な語句を集め、問題の説明の中で使える。相手の出した手がかりに関心をもち、質問や付け足しで話をつなげられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①物の特徴を表す身近な語句を集め、問題の説明の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)オ)

〔思考・判断・表現〕①「話すこと・聞くこと」において、相手の出した手がかりに関心をもち、質問や付け足しで応答している。(A(1)オ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

身近な物の特徴を使った問題を相談して作る。思い付いた手がかりを順に言うだけにせず、相手の案を聞いて付け加えたり、理由を尋ねたりして話を続ける。学習指導要領のA(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案では〔知識及び技能〕(1)オを活動に関わる事項として扱う。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

問題にする実物を見ながら、色・形・使い方などの特徴を言葉にする。教師が相手の案を受けて質問するやり取りを示す。言葉が出にくい児童には特徴の絵カードを用意する。おおむね満足できる状況は、相手の出した手がかりに関心をもち、質問や付け足しで応答しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全4時間）

第1次 第1時：○身近な物を題材に問題を聞き、手がかりになる特徴を見付ける。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時（本時）：○問題にする物を選び、相手の案を受けながら手がかりと出す順を相談する。 評価：思①（発言・学習記録）

第2次 第3時：○作った問題を出し合い、相手の反応を聞いて手がかりを直す。 評価：学習状況を見て支援する。

第3次 第4時：○友達の案を受けて話した言葉を振り返り、相談のよさを確かめる。 評価：態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導 (2/4)

(1) 本時の目標

相手の出した手がかりに関心を持ち、質問や付け足しで話をつなげられる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「友達の手がかりを聞いて、付け加えたいことや確かめたいことはありますか。どの手がかりから出すか、どう相談しますか」

【めあて】身近な物の特徴を使った問題を相談して作る。

予想される児童の反応：・その手がかりだとすぐ答えが出るから後にしよう。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「友達の手がかりを聞いて、付け加えたいことや確かめたいことはありますか。どの手がかりから出すか、どう相談しますか」

出題する役と答える役に分かれ、物の特徴を手掛かりとして伝える。聞き手は知りたい特徴を質問し、出題者はその質問に答える情報を付け足す。役を交代し、どのやり取りで物が分かったか話す。

予想される児童の反応：・その手がかりだとすぐ答えが出るから後にしよう。

- ・色だけでは別の物もあるから形も伝えたい。
- ・友達の考えを聞いて使い方の手がかりを思い付いた。

指導上の留意点：問題にする実物を見ながら、色・形・使い方などの特徴を言葉にする。教師が相手の案を受けて質問するやり取りを示す。言葉が出にくい児童には特徴の絵カードを用意する。

想定する難しさ：それぞれの案を交互に言うだけで応答にならない。答えを当てる速さだけを競う。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 相手の出した手がかりに関心を持ち、質問や付け足しで応答している。(質問と付け足しの応答の観察)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

- ・友達の考えを聞いて使い方の手がかりを思い付いた。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。

評価：態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「友達の手がかりを聞いて、付け加えたいことや確かめたいことはありますか。どの手がかりから出すか、どう相談しますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

